

3 級水先人実船訓練区分（モデル）

〇〇水先人会

1. 新人 3 級水先人の訓練対象とする区分		
訓練区分名	区分に含まれる海域やルートの詳細	
航行業務	〇〇湾口⇔〇〇港沖	〇〇湾口⇔〇〇港沖
	〇〇湾口⇔〇〇港沖	〇〇湾口⇔〇〇港沖
	〇〇湾口⇔〇〇港沖	〇〇湾口⇔〇〇港沖
	⋮	⋮
入出港業務	〇〇港沖⇔〇〇港内	〇〇港沖⇔〇〇港〇〇埠頭
		〇〇港沖⇔〇〇港〇〇埠頭
	〇〇港沖⇔〇〇港内	〇〇港沖⇔〇〇港〇〇埠頭
		〇〇港沖⇔〇〇港〇〇埠頭
⋮	⋮	
シフト業務	湾内港間移動	〇〇港⇔〇〇港
		〇〇港⇔〇〇港
		⋮

注 航行業務と入出港業務の訓練は通して実施することがある。

2. 2 級昇進までに就業制限解除を経て習熟する区分（訓練対象外）	
区分名	区分に含まれる海域やルートの詳細
〇〇湾口⇔〇〇港内	〇〇湾口⇔〇〇港〇〇埠頭
〇〇港	
各港内	〇〇港〇〇埠頭、〇〇港〇〇埠頭、〇〇港〇〇埠頭
湾内港間移動	〇〇港⇔〇〇港
⋮	⋮

訓練指導マニュアル（モデル項目例）

〇〇水先人会

3級水先人氏名 _____

実船訓練区分名 〇〇湾口～〇〇港〇〇埠頭

船名 _____ 船種 _____ 総トン数 _____

指導項目	指導水先人の評価			
	3点 適正	2点 十分	1点 不十分	0点 不適正
乗船前準備				
船名、仕出港、仕向港等、水先人会からデータ（運航予定一覧表等）を入手しているか。				
気象、海象、水路の確認ができているか。				
必要書類、携帯品の確認ができているか。				
PASSAGE PLAN				
各船舶の操縦性能や外力の影響、余裕水深、漁業の操業状況及び船舶の輻輳状況を考慮したものとなっているか。				
海上衝突予防法、海上交通安全法、港則法及び海上保安本部の航行安全指導に従ったものとなっているか。				
計画は海上保安本部による航法に則った合理的なものとなっているか。				
航行時の操船				
「操船・安全性」				
Pilot Information Card及びPilot Cardに基づいてPassage Planの説明を船長に行ったか。				
Passage Planと異なる操船方法をとる場合は、船長又は乗組員に説明したか。				
乗船後周囲の状況（他船の状況、漁船の操業状況等）を適切に確認しているか。				
適正な操舵量、回頭角速度又は減速等による避航動作ができたか。				
自船の操縦性能・航行状態を把握し適正な時期に変針を開始したか。				
変針開始タイミングは操縦性能を考慮したものか。				
自船運動制御のために適切に機関を使用できたか。				
浅所の避航、喫水と水深との関係等、航路特性の情報の把握は十分か。				

〇〇航路への進入角度・速力は適切であったか。				
〇〇ブイと〇〇ブイの間では安全な速力で航行したか。				
〇〇からの出航船との避航動作は適切であったか。				
〇〇ブイと〇〇ブイ間の反航船、横切り船、追越し船等との船間距離は十分であったか。				
その他、適正な安全運航の確保のために必要と思われる操船ができたか。				
「伝達・安全性」				
レーダー、ARPA、ECDIS、GPS及びAISの操作・取扱いに習熟しているか。				
海上衝突予防法、海上交通安全法、港則法に定められた信号、形象物は表示されたか。				
衝突のおそれがある船舶等との危険回避のための連絡が適切に行われたか。				
VHF連絡の内容は合理的で他船が明確に理解できるものであったか。(英語を含む。)				
〇〇マーチス、〇〇ハーバーレーダー、ポータルラジオとの連絡が適切に行われ、予定通り入航できたか。				
「判断・適法性」				
海上衝突予防法、海上交通安全法、港則法上、他船との見合い関係において適切な行動をとっているか。これらで定められている注意喚起信号、警告信号、操舵信号等を理解しているか。				
〇〇航路の管制間隔を熟知し、確実に守られたか。そして適切な船間距離を保って航行したか。				
〇〇ブイと〇〇ブイをそれぞれ左に見て航行したか。				
航路内での制限速力(対水12ノット)を遵守したか。また、航路内での右側航行を遵守したか。				
「見張り・効率性」				
目視、レーダー等を用いて余裕のある時期に他船の存在や航路標識を発見しているか。				
停留している船舶や浮標との離隔距離は適切であったか。				
存在を発見した船舶との衝突の恐れを適切に判断しているか。				
進路が交差する船舶及び漁船の操業状況に注意を払っているか。				
魚網、浮き等との離隔距離は適切であったか。				
複数船との遭遇時において、余裕のある時期に適切に避航動作ができたか。				

バースへのアプローチ操船				
アプローチは外力（風、潮流等）や船舶の輻輳等の諸状況を踏まえて適正であったか。				
タグボート・舵・機関等の使用状況は適切であったか。				
バース接近時の船速制御は適切であったか。				
〇〇航路と〇〇航路の交差部での運航、〇〇水路への進入又は〇〇水路から〇〇航路への進入は適切であったか。				
着離棧操船				
接岸速度は適切に制御されて、バース側の安全基準を満たしていたか。				
横押し時又は離岸時のタグボート、本船スラスターの性能を理解し、その使用状況は適切であったか。				
本船機関の性能を理解し、その使用状況は適切であったか。				
入・出港時の進路信号、ハーバーレーダーへの連絡は適切であったか。				
本船船長とのコミュニケーションは十分図られたか。				
タグボート、スラスターの号令は適切であったか。				
岸壁、他の停泊船等に接近し過ぎることはなかったか。				
港内速力は適正であったか。				
操船終了後の評価				
操船態度に余裕はあったか。				
Passage Planに沿って操船できたか。（概ね適正な時間内で操船を完了できたかを含む。）				
BRMは適切に行われたか。また、船内及び外部（他船、マーチス等）間で情報交換やコミュニケーションは的確にできたか。				
湾口から〇〇航路へのアプローチ、航路内航行、〇〇湾内の航行に際し、交通流を乱す航行はなかったか。				
水先人会の安全運航細則、船舶運航係留基準に則った操船ができたか。				

別紙3
年 月 日

3級水先人実船訓練評価シート（モデル）

〇〇水先人会

3級水先人氏名 _____
実船訓練区分名 _____

評価項目	水先人会／評価員の評価				摘要
	3点 適正	2点 十分	1点 不十分	0点 不適正	
乗船前準備					
PASSAGE PLAN					
操船・安全性					
伝達・安全性					
判断・適法性					
見張り・効率性					
バースへのアプローチ操船					
着離棧操船					
操船終了後の評価					
合計					
最終評価					

注 合計9項目：満点（適正）27点、合格点（十分）18点

総合評価

評価員氏名 _____

⋮